

南山の風

夏の風物詩 「海の家@篠島」

毎年、夏休みの到来とともに始まるのが、小学生の子どもたちにとって最も楽しい「篠島」です。今年で6年目を迎えた「名養連海の家」…南山寮からは男子小学生15名が民宿福丸さんに、女子小学生8名が民宿湧泉さんにお世話になりました。福丸さん、湧泉さんにお世話になるのも4年目…今や篠島にある「おうち」と言ったところでしょうか。

今年も燃えた! 「魚とタコのつかみどり」

「海の家」は、恒例の「魚とタコのつかみどり」で開幕です。南山寮の子どもたちは、真夏の太陽に負けにくい闘争心をメラメラと燃やし、開始の合図とともに、夕食のメインディッシュをゲットすべく猛然と海に向かってダッシュ! 高学年の子どもたちは手慣れたもので、魚もタコもあつという間に捕獲されてしまいました。昨年に引き続き、テンションのあがった若手職員がタコの吸盤に吸い付く場面も! 今年の夕食も海の幸満載で美味しかったです。



海の家 おもしろ写真館 2014 その1



そのスイカ、すっぱいの???



篠島の自慢。
この島の夕日と新鮮なしらす!
そして、マッチョな私たち!



遊び疲れて z z z...

とってもキレイな篠島の海で今年も海水浴だ!

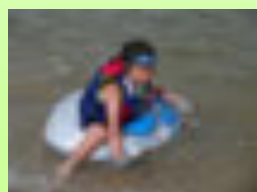
1日目も2日目も、海に入る前はラジオ体操第一で準備運動です。はやく海に入りたい子どもたちは、どうしても「心ここにあらず」の状態でのラジオ体操となり、左右の動きがみんなバラバラでした。



篠島の海はとにかくキレイです。愛知県の“本土”の海とは比べものになりません。その透き通った水を通して、泳いでいる魚が見えるほどです。



子どもたちは、まず、それぞれの浮き輪に捕まって波間に漂うことから海を楽しみます。それに飽きると、職員にちょっかいをかけ、海ならではのふれあいを楽しんでいました。真夏の太陽の光を浴びて、笑顔もキラキラと輝いていました。



篠島ウォーキングを楽しむ!



子どもたちが泳いでいる場所の近くに、左写真のような囲いがありました。なんと、ウミガメが3年ぶりに篠島に産卵に来たそうで、産卵場所を保護しているとのこと。ウミガメは、一度に100個以上の卵を産むそうです。右の画像は、7月17日に実際にウミガメが散乱に来た時のもの（篠島ウミガメ隊ブログより転用）です。ウミガメが散乱に来るなんて、篠島の海がいかにステキかがわかります。



東日本大震災による津波の教訓から、有事の際の避難場所として指定されているのが、民宿の近くの高台にある旧篠島小学校跡地です。旧校庭のわきに古色蒼然としたポストがぼつんと立っています。教材用ポストと書かれていますが、どんな使われ方をしていたのかは謎です。



篠島のあちこちに島弘法が鎮座しています。明治44年に遠州灘で篠島の漁師数十名が遭難したことをきっかけに、島をとりかこむように安置されたものです。



夕食後、子どもたちは買い物に出掛けるのを楽しみにしています。昨年できたコンビニは素通りし、子どもたちが向かったのは、昔ながらの島の駄菓子屋でした。買ったアイスを店の前に座り込んで食べる様子は、まさに昭和な雰囲気。宿への帰り道、夕やみ迫る港では、停泊する漁船が波に揺られて単調なメロディを奏で、郷愁を誘います。



海の家 おもしろ写真館 2014 その2



篠島のどの民宿にも
なぜか信楽焼の大タヌキが？



職員も童心に帰って海を満喫！



さて、何人乗っているでしょう？



ただいま魚に求愛中！
篠島2年目の恋は実るのか？

寄贈のうなぎの蒲焼きを食べました！

前号でも紹介しましたが、株式会社ショクブンさんから37年目となるうなぎの蒲焼きの寄贈がありました。7月26日（土）の昼食は、全員が地域交流スペースに集まっての「うなぎの蒲焼きを食べる会」になりました。



当初は、園庭にて炭火を使って焼いて食べる予定でしたが、あまりに暑く、熱中症が懸念されたため、厨房で焼いたうなぎを丼に盛り付けて、子どもたちに提供する形になりました。

いつもはそれぞれのユニットで食事しているので、みんなで集まって食事すること自体も楽しく、また、ショクブンさんからいただいた三河一色産のうなぎがあまりにも美味しくて、普段にも増して旺盛な食欲を發揮していました。うなぎを6匹も食べた高校生、初めての食感に笑顔全開の幼児さん…ショクブンさんのおかげで楽しいランチタイムになりました。



幼児さんも日帰りで海水浴へ！



今年の幼児さんの海水浴は、小野浦での日帰りでの実施となりました。大正時代からの老舗旅館「小野浦館」を拠点として、幼児さん12名、職員7名で2時間ほどの海水浴を楽しみました。幼児さんの海水浴には、例年、日本福祉大学の養護施設ボランティアサークル「おむすび」さんが参加をしてくれており、今年も前期試験中にもかかわらず、4名の学生さんが来てくれました。子どもたちの安全確保も含め、海水浴のお手伝いをして下さっています。



小野浦の海水浴場は、まるでプライベートビーチのごとく貸し切り状態。遠浅の穏やかな海は、幼児さんたちが遊ぶのに最適でした。海に向かう途中で「えびせんべいの里」で試食できたこと、海水浴中に名古屋港に向かう船舶やセントレアから飛び立つ飛行機の姿が見られたこと、海辺でおいしいスイカを食べることができたことは、幼児さんたちにとってはとても嬉しい出来事でした。



施設児童の自立支援研修が南山寮で！

7月5日（土）、南山寮ふれあいホールに、名古屋市内の児童養護施設に入所している中高生37名が集まり、「施設を退所してからも困ることのないために」自身の自立について考える研修を受け、将来の経済的・社会的・精神的自立につなげるべく、職業観の醸成を図る研修が開催されました。年間を通して5回ある研修の第2回目にあたり、今回は、児童養護施設入所児童の自立支援を事業の柱として精力的に活動されている NPO 法人ブリッジフォースマイルさんの講師群による、『職業について考える』というテーマでの研修となりました。



37名の児童をグループ分けし、『「仕事をする」を考えよう！』

という大きなテーマのもと研修が始まりました。世の中にはどんな「仕事」があるのか、「仕事」ってお

互いにどのように関わっているのか、「仕事」をするときに大切・必要なことは何か、をブレインストーミングで出し合う、完全な参加型のワークショップ形式で研修が進行していき、受講していた子どもたちも楽しみながら、自分の考えや意見を積極的に答え、みんなから拍手をもらって満足そうでした。

研修のメインは、「いきいきゲーム」。会場を1つの世界とみたと、ライオン国、ラビット国など動物の名前の付いたいくつかの国に分かれの国対抗ゲームです。それぞれの国情に合わせて、支給される紙（資源）・道具（技術力）・所持金（資

金）が異なります。それらを用いて指定された製品を生産し、『製品取引所・銀行』に持ち込むと換金でき、その他、様々なアイデア・工夫を凝らして、時間内に一番豊かになることができた国が勝ちとなります。ゲーム中は、現実にも起こりうる出来事や変化がおこり、どのように対処してくかも重要な鍵になります。65分間の「いきいきゲーム」は、名前の通り、子どもたちが本当に楽しそうに、目標達成に向けて、時には和気藹々と、時には戦々兢兢と国家間の交渉を進めていきました。

グループ内で協力して課題に取り組むことを通して、自分の役割を認識するとともに、社会性や人間関係の大切さにも気づくことができます。国情により不平等な設定になっているので、価値観の違いや与えられた環境をどう受け止め、目的を達成するために環境をどう変えていくかを考えることができます。状況はさまざまに変化するため、現実の社会で起こり得る予測不可能な環境変化をリアルに体感できます。このゲームのいいところは、自らの意志で考え、選択しながら、自分の強みや弱みの認識ができることです。また、ゲームを通じて擬



似体験しながら、自分自身と社会とのつながりを感じられる点です。さらに、P D C A サイクル、チームワーク、コミュニケーション、情報収集、WIN-WIN 思考など、社会を生きていく上で大切なことを体感しながら理解できる点です。



特集 八事いりなかの今は昔…

その8 旌忠社（招魂社）はどこに？！

昭和区制施行50周年記念事業として昭和62年に発行された『昭和区誌』には、南山寮の所在地について、次のような記述があります。

『…宮本武蔵の「新免政名供養碑」や、戊辰の役の英霊をまつる旌忠社も最初はこの寺にあった。』

宮本武蔵の碑が昭和12年まで南山寮にあり、半僧坊新福寺に移転した事実は、新聞記事や南山寮の日誌からも証明でき、本誌3月号にて紹介しました。しかしながら、旌忠社が最初は新豊寺に建てられたという史実は現時点ではこの『昭和区誌』にて確認できるのみで、これ以外の文書は見えていません。

そもそも旌忠社とは何かから始めなければなりません。旌忠社の歴史は、明治元年に起こった戊辰戦争に遡ります。戊辰戦争は、王政復古を経て明治政府

府を樹立した薩摩藩・長州藩らの中核とした新政府軍と、旧幕府勢力および奥羽越列藩同盟が戦った内戦です。明治2年5月、尾張藩主徳川慶勝侯が、戊辰の役に戦死した藩士等二十五柱の神霊をお祀りして「旌忠社」と号したのが始まりです。ちなみに、旌忠社の「旌」とは、『旗竿のさきに旌(ぼう)という旗飾りをつけ、これに鳥の羽などを垂らした旗。天子が士気を鼓舞するのに用いる。また、旗の総称』であり、つまりは「錦の御旗」に忠誠をつくした英霊を指す言葉です。旌忠社の名は、明治8年「招魂社」、同34年「官祭招魂社」、昭和14年「愛知県護国神社」と改称されました。愛知県護国神社のHPでは、招魂社はもとは昭和区川名山（現在の聖霊病院）にあり、大正7年に城北練兵場（現在の名城公園）に遷座、さらに昭和10年に現社地に遷座となっています。現在、愛知県護国神社がある場所は、かつて、おとなりの滝川町の名の由来となる滝川豊後守忠暁氏の屋敷がありました。いずれにしても、旌忠社が最初は新豊寺に建てられたという情報は、愛知県護国神社側では把握できていないのが現状であり、旌忠社が最初は新豊寺に建てられてから数年で川名山に移転したのか、最初から川名山に建てられたのかは現時点では確認できていません。

なお、愛知県護国神社が発行した『旌忠社』という冊子には、明治6年の「旌忠社絵図」が掲載されており、明治6年には旌忠社が川名山に存在していたことがわかっています。明治2年に建立された旌忠社がはじめは新豊寺に存在したのだとしても、それは明治6年以前までのことで、極めて短期間で川名山に移転したということになります。

⑧ 新豊寺 南山町
曹洞宗、鳳凰山と号し、遠江国城東郡兒崎村少林寺の本寺。寛延元年（1748）塚藤隆和尙が開山した寺で、「南山寺」とも称せられて愛知育見院南山寮一帯に、明治初年まであったが廃寺となり廃存していない。
塚藤隆和尙は、臨済宗の白隠禪師と並び称せられる高僧で、明治4年（1871）に没している。
また、この寺の第3世玄開和尚和尙も同宗玄奘禪師の号を賜った名僧で、永平寺で「正法眼藏」と「大涅槃」を撰述して開校したり、講堂を再建したりして宗風を一新し、永平寺第50世の中興開山となった名僧である。歴代和尙が大いに宗風を振興したので、各方面の信仰は厚かった。
宮本武蔵の「新免政名供養碑」や、戊辰の役の英霊をまつる旌忠社も最初はこの寺にあった。武蔵の碑や19世に及ぶ歴代和尙や著名人の墓所の跡は、半僧坊新福寺に移されてまつられている。



世界最大のたばこメーカーであるフィリップ ellsの日本法人フィリップ ellsジャパン（以下PMJ）中部支社様が、昨年秋、南山寮にて清掃ボランティアをして下さいました。PMJ様では、2007年より社員が業務の一日をボランティア活動に費やす「PMJ ボランティア・デー」を設けていて、日本における重大な社会問題の一つである「子ども虐待」問題に対する取り組みの一環として、このボランティア・デーには児童養護施設における幅広いボランティア作業をして下さっています。PMJ 中部様は昨秋南山寮を活動対象として園庭の清掃ボラを、それ以降も折に触れてたくさんのジュースをご寄贈下さっています。先日も、子どもたちの健康を考えて、野菜ジュースとフルーツジュースが届きました。



☆☆ご連絡☆☆



フランスと日本の国民負担率（税負担率+社会保障負担率）には大きな差があるため、日本がすぐにフランスを見倣うことにはならないだろう。フランスの家族政策は、「国の未来を見据えた投資」として国民のコンセンサスが得られたものだが、今の日本では、「政府・政策に対する国民の信頼」という観点からも、国民的合意が得られにくい。財源議論は勿論のこと、国民のコンセンサスを得た上で、真に「子ども・子育て支援」の制度となるような議論のできる日が来るのはいつになるのだろうか。（リョウチョウ）

一方、フランスの家族政策、特に出産・子育てと就業の両立支援のための環境整備に関わる施策は、今後、日本がお手本とすべきものとなっている。日本の児童手当に当たる家族手当だけ見ても、フランスという国がいかにか子育てを重視しているかがわかる。一般的扶養給付として、第2子以降に必ず支弁される「家族手当」に加え、3人以上の子どもの扶養する家族に給付される「多子手当」、両親の片方または双方からの援助のない子どもへの「家族援助手当」がある。出生関連の乳幼児受入手当として、「出産手当」に加え、養子縁組した子の子育てに支給される「養子手当」、3歳未満児童養育家庭に支給される「基礎手当」、子どもを養育するために全面的または部分的に職業活動を停止することによって喪失した所得の補償をする「就業自由選択補足手当」と多岐にわたる。さらに、特定目的給付として、障害のある子どもへの補償のための「特別教育手当」、重病や障害のある子どもの看護のために保護者が休職または労働時間を短縮することによって喪失した所得の補償のための「親子きそい手当」、子どもの新学期や進学にかかる費用の補償のための「新学期手当」、家族給付受給権者の家賃等の補償のための「住宅手当」…。親が子育て中に直面しそうな様々な困難を予測した上で、それに対処可能な子育ての資源を準備していることが見て取れる。

7月に厚生労働省が公表した「国民生活基礎調査」で、2012年の相対的貧困率が16.1%となり、過去最悪だった前回調査より0.1ポイント悪化したことや、17歳以下の子どもの貧困率は前回を0.6ポイント上回る16.3%に達し、ひとり親家庭の貧困率が54.6%と前回を3.8%も上回ったことなどが明らかになった。また、平均所得額は537万2千円で1988年以降で最も少なく、生活意識について「苦しい」と回答した世帯の割合も全体の59.6%と増加し、母子世帯の84.8%、子どもがいる世帯の65.9%が「苦しい」と回答している。子どもの貧困対策をはじめとする家族支援に関わる日本の家族政策は、先進国の中で最も「薄い」と称される理由が数字に表れている。

コラム 南山隼人 フランスの家族手当はスゴイ

<p>平成26年 8月号 (月刊：毎月1日発行) ＜明治19年10月 第三種郵便物無認可＞</p>	<p>発行：社会福祉法人 愛知育児院 児童養護施設 南山寮 編集責任者： 施設長 山田 勝己 〒466-0835 名古屋市昭和区南山町5番地 TEL (052)831-3750 FAX (052)835-7483 e-mail: nanzanryo.1909@space.ocn.ne.jp</p>
---	---